



3MKII

SERIES POWERED
STUDIO
MONITORS

取扱説明書

Version 1.1



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

安全上の重要事項

1. 本マニュアルに記載されている全ての警告と指示に従ってください。
2. 本体を水の近くで使用しないでください。
3. 本体を水または液体の中にいれないでください。
4. 本体に直接エアゾールスプレー、クリーナー、消毒剤や殺虫剤を使用しないでください。
メンテナンスは乾いた布で拭いてください。
5. 本体の通気口をふさがないように、マニュアルの指示に従って設置してください。
6. 熱源（ラジエーター、ストーブ、アンプ）などの近くに設置しないでください。
7. 安全のため、アース付きプラグを使用してください。
8. 電源コードは踏まれたり、挟まれる事の無いようにしてください。
9. 電源コードを抜く際は、コードを引っ張らず、プラグ部分を持って引き抜くようにしてください。
10. 製品受領時に外部に損傷（電源コード等を含む）が無いか確認してください。もし製品にダメージが有った場合、ただちに販売店へ連絡してください。修理を行わずに使用を続けると更なる深刻なダメージを被る恐れがあります。その状況で使用を続けた場合は、保証期間内でも保証外の対応となる場合があります。
11. アクセサリーやパーツは、メーカーが定めた物をご使用ください。
12. 長期間使用しない場合や、雷が発生した時はプラグを抜いてください。
13. 電源周りのトラブルや液体をこぼしてしまった時、高い湿度にさらされた時は、販売店に相談してください。そのまま使用を続けたり、無理に自分で修理を試みないでください。
14. 電源コードのプラグは抜き差し可能で、差し込むだけで使用できます。
15. 地域の法律に沿ってご使用ください。
16. 設置について疑問が生じた場合は、販売店に相談してください。

メンテナンスと修理

本製品は最新の電子技術と素材を使用しているため、それに応じたメンテナンスと修理を行う必要があります。機材へのダメージ、使用者へのケガを防ぐためにメンテナンス/修理はJBLの代理店にて行ってください。

目次

安全上の重要事項	2
メンテナンスと修理	3
はじめに	5
主な特長	5
仕様	8
各部の名称	10
設置	16
接続	17
故障かな？と思ったら	21

はじめに

この度はJBL 3 シリーズ・スタジオ・モニターをご購入いただき、誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前に、
この取扱説明書を必ずお読みください。

主な特長

JBL 3 シリーズは、プロ仕様のトランスデューサーとネットワークテクノロジーを搭載し、再現性の高い周波数特性と拡張された低域、高い SPL を誇ります。また、JBL Liner Spatial Reference (LSR) は、様々な音響空間と制作環境において、高い精度のミックスポジションを作ります。

LSR JBL Liner Spatial Reference (LSR)

リスニング環境は様々です。3 シリーズに搭載されている JBL Liner Spatial Reference (LSR) は色々な大きさの部屋において、高いリスニング・ポジション精度を実現します。その精度は、スイートスポットがセンターにあるだけでなく、ミックスポジションも正確にセンターにくるよう調整します。

殆どのメーカーはスイートスポットを計るのに一カ所のみを計測するのに対し、LSR では、スピーカー回り 360°、72 カ所を計測、通常の 1200 倍ものデータを集めます。そのデータは重要なシステム部品の設計に使用され、どのような部屋においても、クリアで正確なサウンドを実現しています。

イメージ・コントロール・ウェーブガイド

細部まで表現する明瞭なサウンド、広いスイートスポット。

繊細で明瞭なサウンドやニュアンスを再現し、ミックスに深みを加える革新的な JBL Image Control Waveguide を搭載。

305P MkII (5 インチ)、306P MkII (6.5 インチ)、308P MkII (サブウーファー) の特長

3 シリーズ MKII モデルは音楽製作現場の要求に応える幅広い音域をカバーします。

最高のミックスを作るために、このシリーズの全モニターに、改良された 3 シリーズ・トランスデューサーを搭載しました。ロングスロー・ウーファーと特許取得済み JBL Slip Stream™ バスレフポートにより、深みのある、コントロールされた低音を実現。特殊繊維を使用した 1 インチ・ネオジウム・ツイーターによる、印象的で繊細、かつ明瞭な高域が楽しめます。精密に調整された磁性流体ダンピングにより実現した、高い HF (高域) 応答特性、さらに改善された低域の直進性、低い歪み率など、JBL エンジニアリングチームは

モニタースピーカーを次のレベルに進化させました。これにより、このクラスでは比類のない卓越したピークハンドリング、驚くようなダイナミクス、フラットな周波数特性を持ちます。

サイズは3種類: 305P MkII (5 インチ)、306P MkII (6.5 インチ)、308P MkII (8 インチ)

最適化された過渡応答特性と改善された直進性を持つ次世代の JBL トランスデューサー搭載

特許取得済み Slip Stream™ バスレフポート、ロングスロー・ウーファーによる優れた低域性能を実現

明瞭で正確な高域を生み出す特殊繊維使用の1 インチ・ネオジウムツイーターを搭載

トランスデューサーに合わせて設計されたデュアル・クラス D アンプを搭載、あらゆる音楽制作に使用できる豊かなダイナミックレンジを提供します。音楽制作、ポッドキャスト、映画音楽、さらに毎日の映像ブログ制作まで、欲しいサウンドとパワーがそこにあります。どの音量でも、比類のない明瞭さを誇ります。機材を繋いで電源を入れるだけで、制作を開始できます。

- デュアル・クラス D アンプ搭載
- 広いダイナミックレンジ
- 歪みを低減し周波数特性を拡張

様々な接続端子により柔軟にセッティング可能

バランス XLR と TRS フォン端子搭載。切り替え可能な+4dBu/-10dBV 入力感度。簡単に設置できるだけでなく、優れた伝送信号品質を保ちます。

- プロの制作現場で使用されている接続方式を網羅
- バランス XLR と TRS フォン端子搭載
- 切り替え可能な+4dBu/-10dBV 入力感度

部屋の大きさと音響特性は、サウンドに大きく影響することがあります。新しく開発された Boundary EQ はモニターをデスクに直接置いたり、壁の近くに設置したときに起こる低域のブーストを押さえることにより、それぞれのスタジオにフィットするようにレスポンスを調整することができます。3 ポジション HF トリムスイッチにより、モニターの高域レスポンスを部屋の音響特性や好みに応じて調整できます。

- 作業環境に応じてモニターのレスポンスをカスタマイズ
- Boundary EQ により環境により生じた低域を補正
- 3 ポジション HF トリムスイッチにより、モニターの高域レスポンスを部屋の音響特性や好みに応じて調整可能

LSR310S サブウーファー

パワフルで拡張された低域レスポンス

LSR310S サブウーファーを増設すると、3 シリーズモニターの低域レスポンスを拡張することができます。特許取得済み Slip Stream™ バスレフポートが搭載され、カスタムメイドの 10 インチ・ダウン・ファイアリング・ドライバーと 200W アンプが、深みとパワーを加えます。XLF Extended Low Frequency Setting は、今日のダンスクラブで使用されている低域のチューニングに最適です。その他、バランス入出力端子、入力感度選択、3 種類のクロスオーバー選択などの機能も搭載されています。

- 特許取得済み Slip Stream™ バスレフポートによる深みのあるパワフルな低音
- XLF Extended Low Frequency Setting がダンスクラブで使用されている低域チューニングを再現
- 3 種類のクロスオーバー設定を選択可能

80Hz

3 シリーズ MkII スタジオモニター（または他のスピーカー）とシームレスにブレンドするハイ/ローパスフィルターを設定します。

サブウーファーから 80Hz より下の信号を出力

OUTPUT からは 80Hz より上の信号を出力

XLF

120Hz ハイ/ローパスフィルターを有効にして、ダンスクラブなどで使用される再生システムに最適化するように低域を調整します。

サブウーファーから 120Hz より下の信号を出力

OUTPUT からは 120Hz より上の信号を出力

External

内蔵フィルターをバイパスして、外部システムによるクロスオーバーを可能にします。

サブウーファーから入力信号と同じ信号を出力

OUTPUT からは出力されません。

※外部クロスオーバーを必ず使用してください。

OUTPUT から出力される信号レベルは、LSR310S の VOLUME の影響を受けません。

JBL が提供する高い信頼性

生産前の設計段階において、3 シリーズは過酷な連続テストを行うことになっています。フルパワーでエラー無しに 100 時間連続音を出し続けることが求められ、これにより信頼性を確認しています。

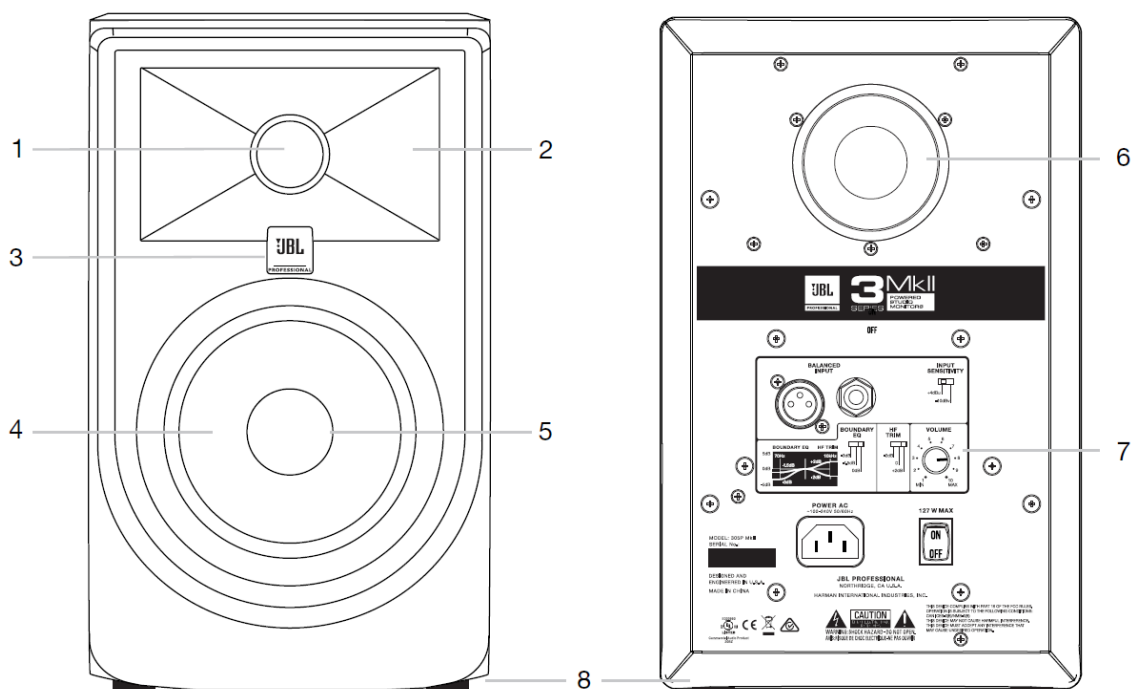
仕様

モデル	305P	306P	308P
構成	2way フルレンジ		
周波数特性(-10dB)	43Hz - 24kHz	39Hz - 24kHz	37Hz - 24kHz
クロスオーバー 4 次リンクウイッツライリー	1725Hz	1425Hz	1800Hz
最大音圧レベル(連続)	94dB※	98dB※	102dB※
最大音圧レベル(ピーク)	108dB※	110dB※	112dB※
最大ピーク入力レベル (-10dBV/+4dBu)	+6dBV/+20.3dBu		
入力コネクタ	1xXLR、1xTRS バランス		
入力感度(-10dBV)	92dB/1m		
HF ドライバー	1 インチ(25mm)		
LF ドライバー	5 インチ(127mm)	6.5 インチ(165mm)	8 インチ(203mm)
パワーアンプ(HF)	41W クラス D	56W クラス D	56W クラス D
パワーアンプ(LF)	41W クラス D	56W クラス D	56W クラス D
HFトリムコントロール	HF シェルビングフィルター@4.4kHz: +2dB、0dB、-2dB		
カットオフ EQ コントロール	LF シェルビングフィルター@50Hz: -3dB、-1.5dB、0dB		
電源	AC100V、50 - 60Hz		
エンクロージャー材料	15mmMDF(繊維板)		
エンクロージャー仕上げ	艶消し黒 PVC		
バッフル材料	射出成形構造 ABS		
寸法(WxHxD)	298x185x231mm	361x224x282mm	419x254x308mm
質量	5.7kg	7.2kg	9.4kg
※:フルバンドピンクノイズ、C ウェイト			

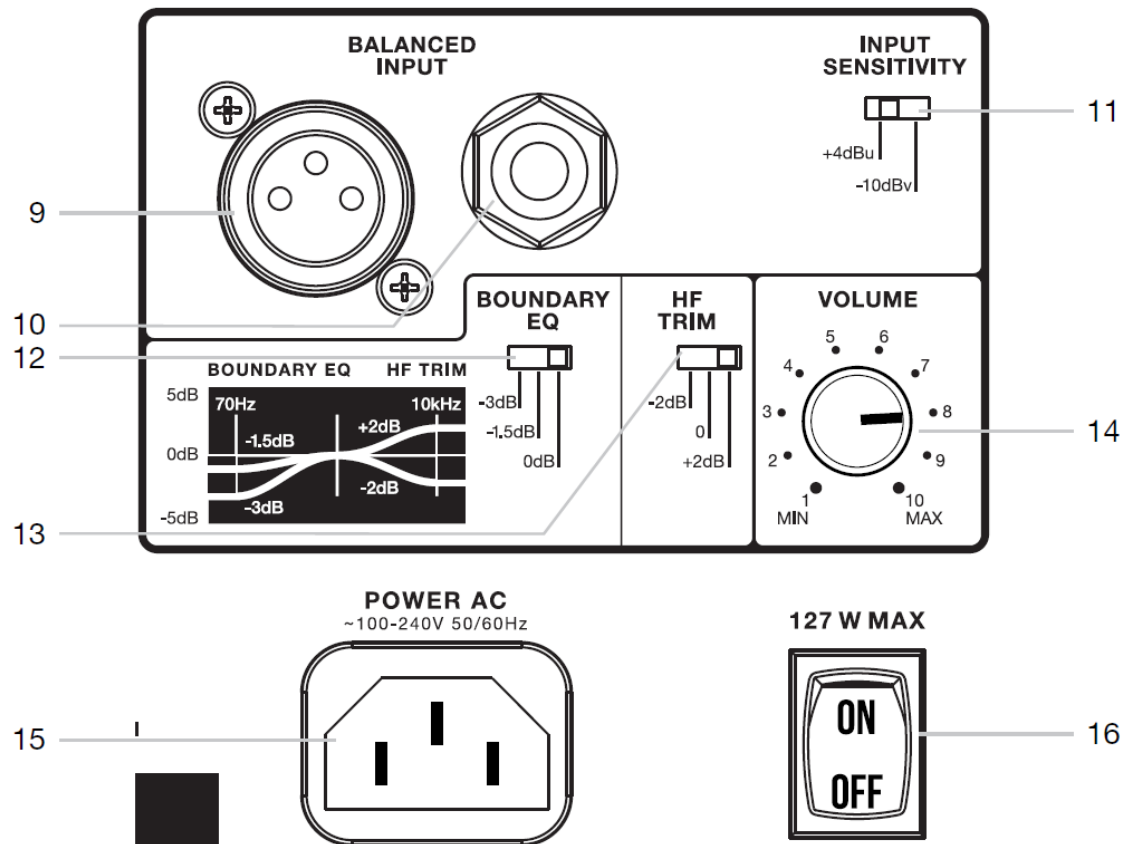
モデル	LSR310S
構成	サブウーファー
周波数特性(-10dB)	27Hz
クロスオーバー	NA
最大音圧レベル(連続)	105dB
最大音圧レベル(ピーク)	113dB
最大ピーク入力レベル (-10dBV/+4dBu)	+6dBV/+20.3dBu
入力コネクタ	2xXLR、2xTRS バランス
入力感度(-10dBV)	92dB/1m
HFドライバー	NA
LFドライバー	10 インチ(250mm)
パワーアンプ(HF)	NA
パワーアンプ(LF)	200W クラス D
HFトリムコントロール	NA
カットオフ EQ コントロール	NA
電源	AC100V、50 – 60Hz
エンクロージャー材料	18mmMDF(繊維板)
エンクロージャー仕上げ	艶消し黒 PVC
バッフル材料	NA
寸法(WxHxD)	520x478x488mm
質量	15.6kg

各部の名称

305P、306P、308P MKII



1. HF トランスデューサ (ツイーター)
2. ウェーブガイド
細部まで表現する明瞭なサウンドに広いスイートスポットを与え、繊細で明瞭なサウンドやニュアンスを再現し、ミックスに深みを加えます。
3. 電源 LED
電源が ON のとき点灯します。(電源スイッチを投入してから LED が点灯するまで少し時間がかかります。)
4. LF トランスデューサ (ウーファー)
5. ダストドーム
ウーファールの内部に埃が入らないように保護します。
6. LF ポート (バスレフ)
Slip Stream Port (特許取得済み) により、正確な低域再生を実現します。
7. 入力パネル
電源コネクター、入力コネクター、各種コントロールつまみなどがあります。
8. ゴム足シール



9. BALANCED INPUTS (XLR)

バランス XLR ケーブルを使用して業務用機器を接続します。

10. BALANCED INPUTS (フォン)

バランス TRS フォンケーブルを使用して業務用機器を接続します。民生用機器を接続するときは、アンバランス TS フォンケーブルを使用してください。

11. INPUT SENSITIVITY

+4dBu

出力レベルの大きい業務用機材や音源を接続するときに設定します。

-10dBV

出力レベルの小さい民生機器を接続するときに設定します。

12. BOUNDARY EQ

スピーカーを床や壁に近い所に置いたときに発生する余分な低域をカットするときに使用します。最も自然な低音を出すために、用途に応じて 0dB、-1.5dB、-3dB から選択できます。

13. HF TRIM

高域を 2dB 増幅、または減衰させます。

14. VOLUME

音量を調整します。

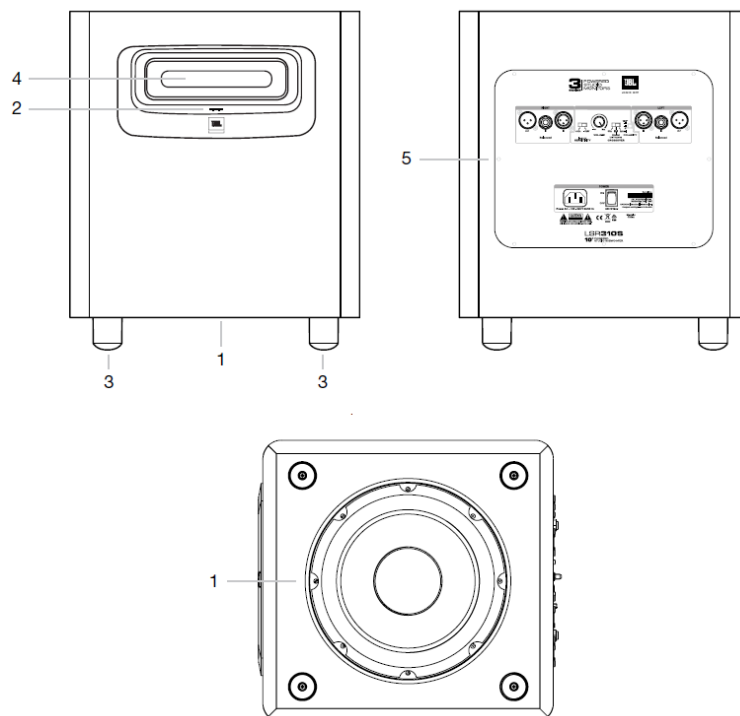
15. 電源コネクター

16. 電源スイッチ

注意

入力信号は XLR 端子、またはフォン端子どちらか一方に接続してください。

LSR310S サブウーファー



1. サブウーファー本体

2. 電源 LED

3. インシュレーター

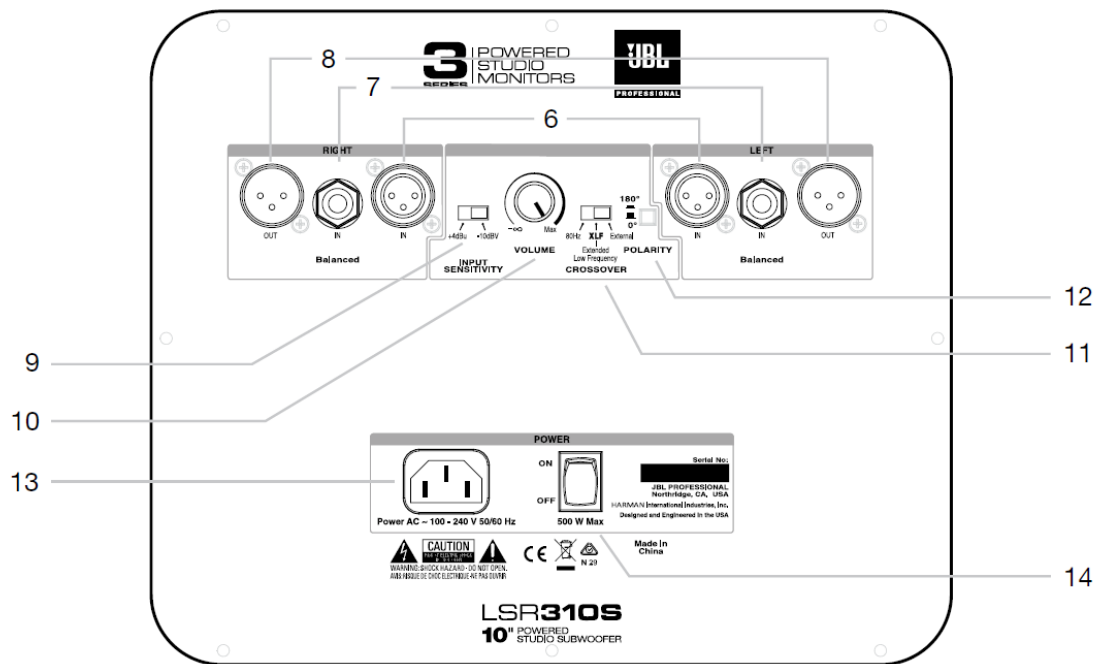
床との共振を防止します。

4. バスレフポート

正確な低音再生を実現します。

5. 入力パネル

電源コネクター、入力コネクター、各種コントロールつまみなどがあります。



6. RIGHT、LEFT 入力 (XLR)

バランス XLR ケーブルを使用して業務用機器を接続します。

7. RIGHT、LEFT 入力 (フォン)

バランス TRS フォンケーブルを使用して業務用機器を接続します。民生用機器を接続するときはアンバランス TS フォンケーブルを使用してください。

8. RIGHT、LEFT 出力 (XLR)

3 シリーズ MKII スピーカーや他のパワードスピーカー、モニター用アンプなどに接続します。

9. INPUT SENSITIVITY

+4dBu

出力レベルの大きい業務用機材や音源を接続するときに設定します。

-10dBV

出力レベルの小さい民生機器を接続するときに設定します。

注意

LSR310S を 3 シリーズ MKII スピーカーと一緒に使用するときは、LSR310S 側の設定にかかわらず 305P、306P、308P MKII 側のスイッチを-10dBV に設定してください。

10. VOLUME

音量を調整します。

11. CROSSOVER

クロスオーバーの設定をします。

80Hz

3 シリーズ MkII スタジオモニター（または他のスピーカー）とシームレスにブレンドするハイ/ローパスフィルターを設定します。

サブウーファーから 80Hz より下の信号を出力

OUTPUT からは 80Hz より上の信号を出力

XLF

120Hz ハイ/ローパスフィルターを有効にして、ダンスクラブなどで使用される再生システムに最適化するように低域を調整します。

サブウーファーから 120Hz より下の信号を出力

OUTPUT からは 120Hz より上の信号を出力

External

内蔵フィルターをバイパスして、外部システムによるクロスオーバーを可能にします。

サブウーファーから入力信号と同じ信号を出力

OUTPUT からは出力されません。

※外部クロスオーバーを必ず使用してください。

OUTPUT から出力される信号レベルは、LSR310S の VOLUME の影響を受けません。

12. POLARITY

スピーカーとリスニング・ポジションに合わせてメインスピーカーとサブウーファーの音のバランスを最適化します。

13. 電源コネクタ

14. 電源スイッチ

注意

入力信号は XLR 端子、またはフォン端子のどちらか一方に接続してください。

LSR310S をサラウンドシステムの 5.1ch で使用する場合、信号をサブウーファーの L/R 入力端子に接続してください。

サブウーファーレベルの設定

LSR310S を 3 シリーズ MKII スピーカーと一緒に使用する場合は、サブウーファーのボリュームをメインスピーカーのボリュームと同じ位置に合わせると、最適なバランスが得られます。しかしながら、スピーカーの設置の仕方により聞こえる低音の量は変わります。サブウーファーの音量がもう少し欲しい場合、サブウーファーのボリュームを用途と好みに応じて変更してください。

設置と POLARITY の設定

人間の耳は低音がどこから来るのか認識できません。従って、サブウーファーの位置はメインスピーカーの位置ほど正確である必要はありません。LSR310S は床に直接置くシステムとして設計されていて、低音を聞こえやすくするために位置を高くすることはできません。POLARITY スイッチを使用するとリスニング・ポジションに応じて、低音をより聞こえやすくすることができます。

ステレオシステムでは、サブウーファーは 2 つのメインスピーカーの間に設置します。サラウンドシステムのときは、センターと左スピーカー、またはセンターと右スピーカーの間に設置します。ちょうど真ん中に設置する必要はありません。サブウーファーの位置決めによって低音が聞こえ難くなる場合があります。サブウーファーは少しセンターから外れた位置に置き、左右の壁の真ん中に設置するのは避けるべきです。

クロスオーバー設定と低音管理

人間の耳は低音がどこから来るのかはっきりと認識できません。音源から離れた所で聞くと、音源の位置を認識するのは容易ではありません。スピーカーから出る低音が右方向から来てるのか、左方向なのか、或いは後ろなのか、サブウーファーからなのかほとんど分からないのが普通です。LSR310S を使用すると殆どの低域をサブウーファーからのみ出力することができます。

左右の信号を LSR310S に入力して、出力を左右のメインスピーカーに接続します。入力パネルにある CROSSOVER FREQUENCY スイッチを設定して、内部的に信号を左右メインスピーカーとサブウーファーに分離します。

80Hz

メインスピーカーのカットオフ周波数以下の音源を正確に再現するフルレンジモニターシステムを作るのに使用します。

XLf

スタジオ内の音楽制作において、もう少し低域レスポンスを改善したいという要求は多くなっています。ダンスミュージックの製作に係わるアーティストやプロデューサーは、ダンスクラブでよく使われる強調された低域を再生できるシステムを求めています。

XLf 設定により、ダンスクラブで使用される低域のレスポンスカーブを再現することができます。120Hz ハイパスフィルターが働き、バンド幅 0.5oct、60Hz、10dB ブーストさ

れます。これにより、低音出力は2倍になり、低域特性がダンスクラブに近くなります。高いピーク SPL を持つ低域エネルギーは JBL のロング・エクスカーション・ドライバーと特許取得済み Slip ポート、200W クラス D アンプにより生成されます。位置を動かすことができるなら、LSR310S を壁面や角に配置することにより低音を 6dB 追加することができます。

EXTERNAL

外部のクロスオーバーに接続するときに選択します。このとき、左右の XLR 出力端子は無効となります。

サラウンドシステムと LFE

LSR310S はサラウンドの LFE (Low Frequency Effects)、または 5.1 チャンネルの再生に使用することができます。映画製作において、爆発など重低音サウンドが LFE チャンネルから再生されます。音楽制作では、ベース、ベースドラム、シンセサイザーなどのサウンドが再生されます。

設置

梱包には次のものが含まれています。

1. スピーカー本体
2. 電源コード x 1
3. ゴム足 x 4 (305P、306P、308P のみ)

※ 輸送時の破損がないことを確認してください。万一破損が確認された場合は、配送業者と発送元に連絡ください。

305P、306P、308P の設置

付属のゴム足をスピーカーの底面 4 箇所に取り付けます。

ツイーターが上になるように床に置きます。

左右のスピーカーをリスニング・ポジションに向けて左右対象になるように設置します。

スピーカーと壁、反射面の距離が同じになるように設置します。

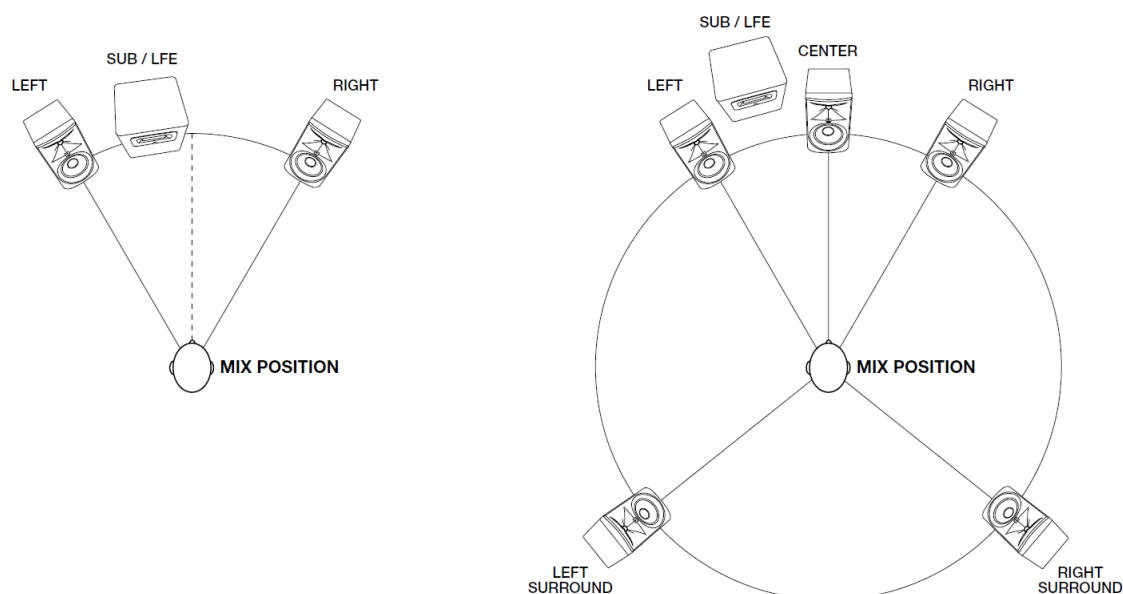
リスニング・ポジションと左右スピーカーが正三角形になるように配置します。左右スピーカーの距離は低音の聞こえ方に影響します。欲しい低音になるように距離を調整します。ステレオ音源の場合、ボーカルや楽器が元の位置から再生されるように、センター位置を調整します。

リスニング・ポジションは好みに合わせて部屋の音響特性、最大 SPL により決めます。最大 SPL@1m はこのマニュアルの仕様を参照してください。リスニング・ポジションからの距離を 2 倍にすると、SPL を無反射の部屋で 6dB、反射が強い部屋で 3、4dB 減少させます。

LSR310S サブウーファーの設置

ウーファーはエンクロージャーの底面に下向きにマウントされています。床に設置する場所に何もないことを確認してから置いてください。

ステレオシステムでは、サブウーファーは 2 つのメインスピーカーの間に設置します。サラウンドシステムの場合は、センターと左スピーカー、またはセンターと右スピーカーの間に設置します。スピーカーの設置の仕方により聞こえる低音の量は変わります。サブウーファーのボリュームを用途と好みに応じて変更してください。



接続

注意

機器を接続する前に、本製品のボリュームを左いっぱいに戻し **Min** の位置にしてください。3 シリーズにはバランス XLR 入力端子と TRS フォン入力端子が装備されていて、オーディオ・インターフェース、ミキシングコンソールなど業務用機器の他に、パーソナル・オーディオ機器、オーディオ・ビジュアル機器など民生用機器を接続することができます。バランス出力を持つ業務用機器にはバランスケーブルを使用して接続してください。

INPUT SENSITIVITY スイッチは工場出荷時に **-10dBV** にセットされています。この設定は殆どの用途に使用可能ですが、次の用途では **+4dBu** に設定する必要があります。

ラインレベル **+4dBu** の業務用機器を接続するとき。(各機器の仕様を確認してください)

本製品のボリュームを最小にしても音が歪むとき。

注意

LSR310S を 3 シリーズ MKII スピーカーと一緒に使用するときは、LSR310S 側の設定にかかわらず 305P、306P、308P MKII 側のスイッチを-10dBV に設定してください。

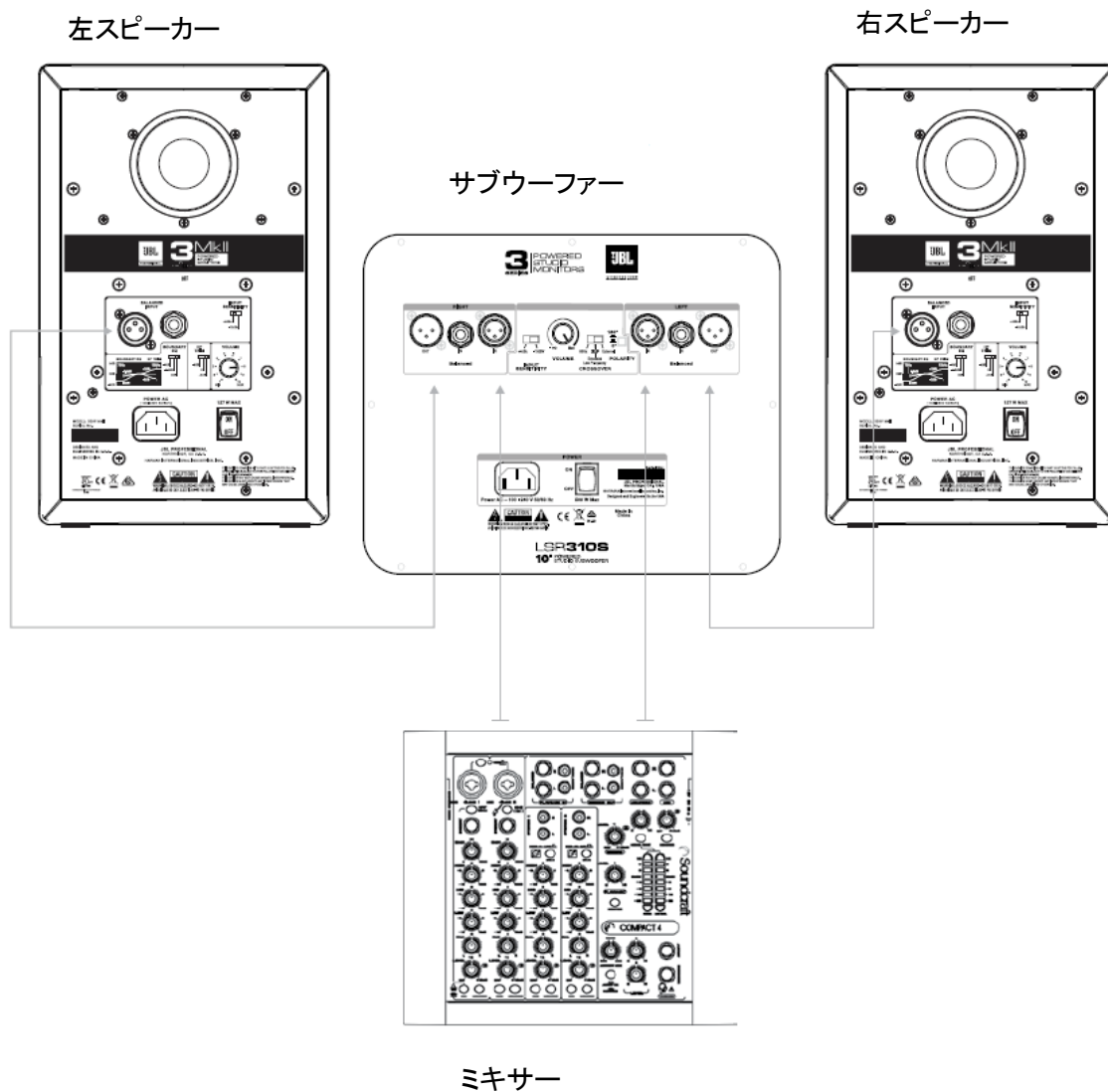
LSR310S サブウーファーの接続

左右の信号を LSR310S に入れて、出力を左右のメインスピーカーに接続します。

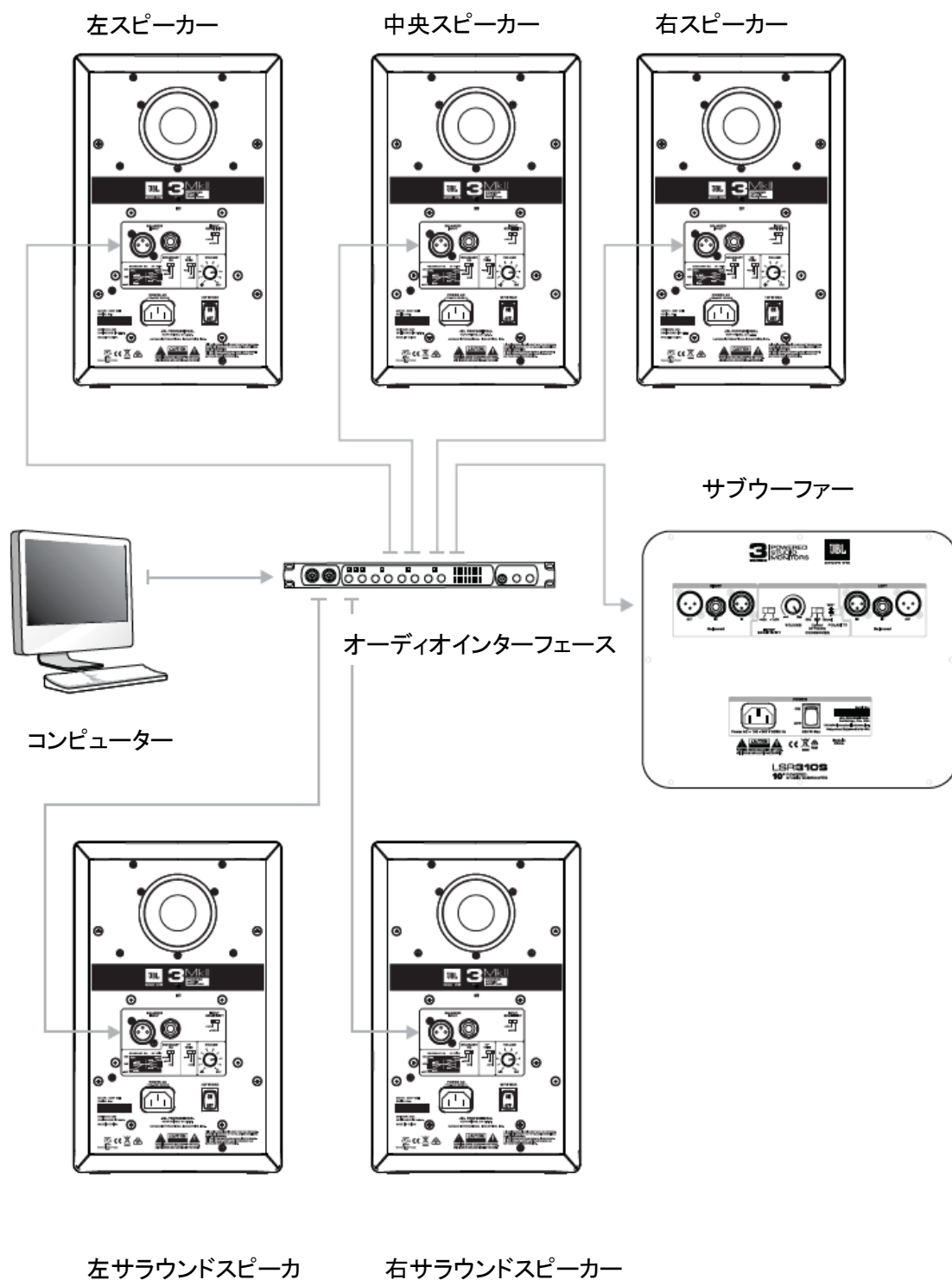
音を出す

1. ボリュームを左いっぱいに戻し MIN の位置にします。
2. ミキシングコンソール、オーディオ・インターフェース、プリアンプなどのオーディオ機器の電源を入れます。
3. 本製品の電源スイッチを ON にします。少し時間が経ってから POWER LED が点灯し、スピーカーは使用可能になります。
4. 低音のレスポンスを判断するために、重低音を含む広い音域をカバーする音源を再生します。
5. 通常聴くレベルまでボリュームを上げます。
6. サブウーファーのボリュームを上げて、バランスを確認・調整します。

2 チャンネルシステム



サラウンドシステム



故障かな？と思ったら

症状	原因	対策
電源がONにならない	電源コードがコンセントに差し込まれていない	電源コードをコンセントに差し込んでください
	電源スイッチが ON になっていない	電源スイッチを ON にして POWER LED が点灯することを確認してください
	電源コードに不具合がある	正常な電源コードに交換してください
	コンセントの電圧が AC100V 以下になっている	コンセントの電圧が AC100V になっていることを確認してください
電源が ON になっているのに音が出ない、または非常に小さい	入力信号レベルが小さすぎる	INPUT SENSITIVITY スイッチを-10dBV にセットする
	スピーカーのマスターボリュームやゲインが小さすぎる	スピーカーのマスターボリュームやゲインを上げてください
	機器の接続に問題がある	機器を正しく接続してください
	接続ケーブルに不具合がある	正常なケーブルに交換してください
音が歪む。	ライン入力信号レベルが大きすぎる	INPUT SENSITIVITY スイッチを +4dBu にセットする
	スピーカーのマスターボリュームやゲインが大きすぎる	スピーカーのマスターボリュームやゲインを下げる
音がびびる	何かと共振している	片方のスピーカーを床から持ち上げてみる。そのスピーカーが原因の場合、市販のインシュレーターを使用して共振を防ぐ。 BOUNDARY EQ スイッチを-1.5dB、-3dB に切り替えてみる。



※この取扱説明書に記載されている商品名、会社名などは、その会社の商標登録です。
また、掲載されている図、写真などの著作権はその会社にあります。